

# 地域の共感をよぶ映像制作 ～まちづくり観光の視点から～

## 1 目的・概要

共感を「人を動かすためのエッセンス」として捉え、映像制作を通して地域住民や他の地域の人たち、さらには自分たちが地域に対する愛着を育て、地域を見る目を養うことを目的とし、映像制作・上映を行ってきた。地域に対する愛情を育み、訪れた人にも愛着を持ってもらえるようなそういった活動を目指した。春学期には映像制作を学ぶために映像の編集方法を学び映像監督や短歌の講師を招き、言葉での説明ではなく映像を通した伝え方を学んだ。また映像の撮影地選定を自分たちが共感を抱いた地域を選定し、出町榊形商店街への取材を始めた。夏休みから秋学期にかけて取材を重ねる中で商店街のお店の方々や常連の方々の愛着に気づき、演出よりも素の商店街を写し出すことが商店街の魅力を伝え、共感をよぶと考えインタビュー形式の映像作成を決めた。編集から音響・効果音など今まで触れたことのない機材やソフトを使い、20分程度の映像を作成した。映像の効果をはかるために上映会を実施を目指し、ポスター制作やSNS運用で集客をした。合計3度の上映会を地域で実施し、行政の方々や大学の方、商店街の当事者などと映像にたいするフィードバックや出町にたいする思いなどの意見共有を行い、映像上映会自体も地域に対する愛情を育む機会とすることができた。その後YouTubeでの一般公開をし、自分たちの映像がどれほど目的を達成できたかをアンケート結果から分析した。



### Annual Schedule

2021年	5月	オリエンテーション、映像制作の手引き、ゲストスピーカーによる講義（短歌・映画監督・脚本作家）
	6月	取材地の選定
	7月	春学期成果報告会に向けた準備
	9月	出町榊形商店街への取材
	10月	出町榊形商店街への取材、映像編集
	11月	映像編集、ゲストスピーカーによる講義（ポスター制作）
	12月	上映会準備、上映会開催
2022年	1月	上映開催、秋学期成果報告会に向けた準備

## 2 成果達成度

プロジェクトの本旨は映像上映から共感を生み出すことであったが、この授業を構成するすべての活動が共感を生み、履修生や周囲に示唆を与えられた。私たちをはじめとする大学生にとって商店街とは距離は近くとも訪れたことのない未知であり、足踏みしてしまう人も多い。そんな中で学生という立場で商店街を取材し、実際にコミュニケーションをとることで人の温かさといった商店街独特の魅力に出会い、今まで買い物に抱いていた印象を更新することができた。また取材自体が地域の魅力を再発見するきっかけともなり、相乗効果を上げたと考えられる。京都新聞社から私たちの取材について取り上げていただき、社会的にも一定以上の効果をもたらせた。また実際の映像上映を通して、ほとんどの方から映像に共感できたとの感想をいただき、新たに行ってみたいという意見や魅力を再確認できたとの意見を受け取り、共感をよぶ映像制作としての効果があったと言える。

その一方で撮影での映像のアングルやポーズの取り方など反省点もあり、良いインタビューを使いきれなかった点があったり、広報活動の申請に時間をとり、本来のスケジュールとは違った形でことが進むことがあったりと少人数でまた経験者がいない中での活動の欠点もみられ、今後の課題となった。総じて目標を達成できたとは言えるが、より多くの方々の共感をよぶために映像の乱れや広報の問題などの課題点は残った。



## 3 プロジェクトを通じて

授業のゴールは共感をよぶことと履修生の地域を見る目を養うことであり、どちらも他のプロジェクトに比べ抽象的であり、具体的な課題解決を目指す授業ではなかった。そのため授業名にある「共感」や「地域」、「観光」などのキーワードを分析するところから授業をはじめ、本当に一から自分たちの作りたいものを作り上げた一年間だった。バックグラウンドの全く違った生徒5人でそれぞれの考えをぶつけ、作りたいものを探し出す作業はとても刺激的であり、映像制作だけにとどまらない経験を得ることができた。少人数のクラスということもあり、一人一人の仕事量も多く、取材交渉やポスター

のデザインなど多岐にわたるタスクを分配する必要があった。それぞれの目指すゴールを一つにし、目的意識を持って活動できたことが一年間この活動を続けてこれた理由であったと考えている。映像を通じて関わった表現者や行政関係者、商店街とその周辺に住んでおられる方々あつての活動であり、コミュニケーションの大切さを学べた一年であった。



#### 編集後記

このプロジェクトを振り返るにあたり、本当に様々な活動を経験してきたことを思い出しました。電話やメールでの交渉はもちろんのこと、長期間取材をしたりといった経験は初めてで人とのかわりをこんなに経験したことはなかったように感じます。私たちの成せたこと成しえなかったことを振り返っていると本当にこの一年間が短く、また充実したものだったことが思い出されます。私たちの活動を支えてくださった先生方や事務局の方々、商店街関係者の方々には感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

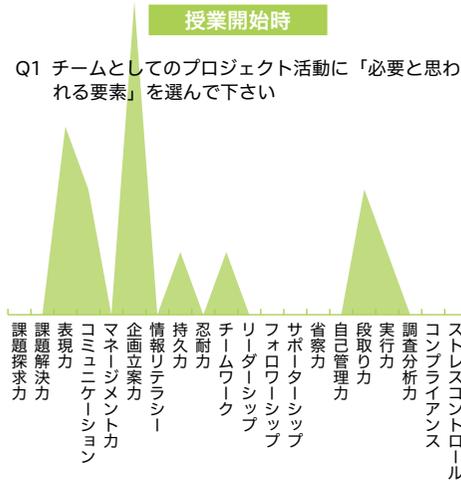
#### プロジェクトメンバー

橋本 たみ(文4) 今井 紗恵(文2) 小峯 桃香(文2) 中村 紗緒理(社会3) 杉浦 太秀(政策2)

## プロジェクト活動 アンケート集計結果

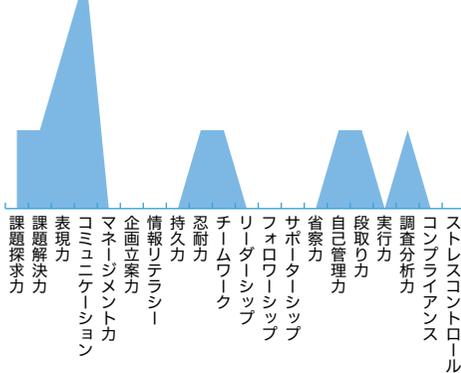
### 授業開始時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい

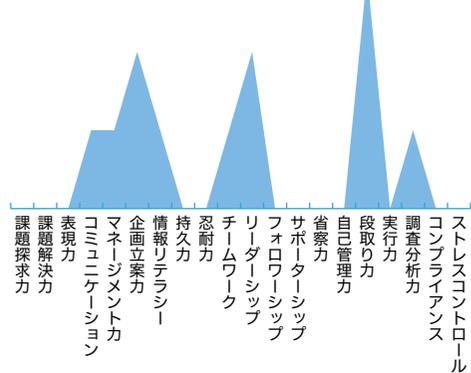


### 春学期終了時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい

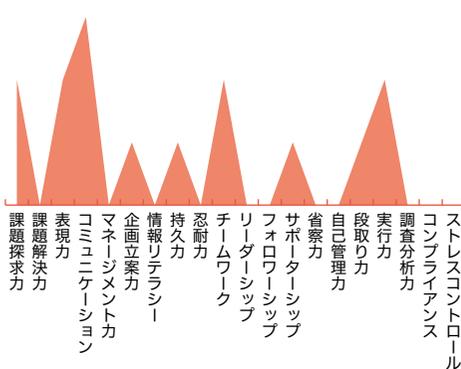


Q2 プロジェクト活動を通して実際にあなたが「身についたと思う要素」を選んで下さい



### 授業終了時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい



Q2 プロジェクト活動を通して実際にあなたが「身についたと思う要素」を選んで下さい

